

三井広報委員会

http://mitsuipr.com

三機工業

新日本空調

三井住友建設

サッポロホールディングス

東レ

王子ホールディングス

デンカ

三井化学 日本製鋼所

三井金属

東洋エンジニアリング 三井E&Sホールディングス

商船三井

三井物産

三越伊勢丹ホールディングス

三井住友海上

三井住友銀行

三井住友ファイナンス&リース

JA三井リース

大樹生命

三井住友トラスト・ホールディングス

三井不動産

三井倉庫ホールディングス

エームサービス



Activities of The MITSUI Public Relations Committee

三井広報委員会 活動紹介









Index

概要	4
現在の主な活動	6
会員会社紹介	10
これまでのあゆみ	19
三井の歴史	28



行動理念

三井広報委員会は、三井グループ各社がまとまり、 様々な文化活動および広報活動を通じて、国際 交流や地域社会の活性化に貢献するとともに、 社会の繁栄と福祉に寄与し、三井グループのより 一層のイメージ向上を目指します。



三井広報委員会

行動指針

I. 国際文化交流の推進

三井広報委員会は、国際間の相互理解の促進を図るため、国内外において 主催・協賛する各種イベントを通じて、優れた芸術・文化を広く紹介し、国際 文化交流を進めます。

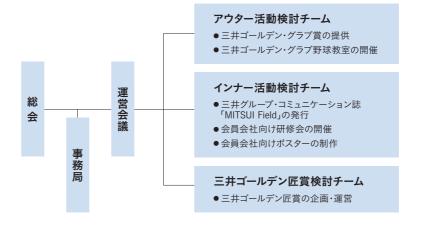
2. 地域文化活動の活性化

三井広報委員会は、日本国内において各地域の主体的参画による芸術・文化 活動を後援し、地域社会の活性化に貢献します。

3. 広報活動の推進

三井広報委員会は、三井グループ各社の活動について国内外に広く理解と 支援を得るため、多様なメディアを通じて、積極的な広報活動を展開します。

組織図







プロ野球セ・パ両リーグの "守備のベストナイン"を表彰

三井ゴールデン・グラブ賞は 1972 年に ダイヤモンドグラブ賞としてスタート し、1986年に現在の名称になりました。 日本プロ野球セ・パ両リーグの第三者公 式表彰として制定される本賞は、毎年卓 越した守備によりチームに貢献した選手 を、新聞社・通信社・テレビ局・ラジオ 局のプロ野球担当記者(現場取材経験5 年以上)による投票で選ぶ、権威ある賞 のひとつです。その年守備で最も輝いた ベストナインの選出に、毎年多くの期待 が寄せられています。

選考対象となるプレーヤーの資格

- 投手は規定投球回数以上投球していること、または チーム試合数の1/3以上登板していること
- 捕手はチーム試合数の1/2以上捕手として出場してい
- 内野手はチーム試合数の1/2以上1ポジションの守備 についていること
- 外野手はチーム試合数の1/2以上外野手として出場し ていること



三井ゴールデン・グラブ賞 歴代受賞記録		
	セントラル・リーグ	パシフィック・リーグ
最多受賞回数	山本 浩二(広)⑩	福本 豊(急)⑫
	駒田 徳広(横)⑩	
	古田 敦也(ヤ)⑩	
	宮本 慎也(ヤ)⑩	
最多受賞外国人選手	ロペス(ティ)④	マルカーノ (急)④
最多連続受賞	山本 浩二(広)	福本 豊(急)
	10年連続/1972~81年	12年連続/1972~83年
最年長受賞	宮本 慎也(ヤ)	稲葉 篤紀(日)
	2012年/41歳11ヵ月	2012年/40歳3ヵ月
最年少受賞	立浪 和義(中)	松坂 大輔(武)
	1988年/19歳2ヵ月	1999年/19歳1ヵ月
満票受賞	堀内 恒夫(巨)1972年	大橋 穣(急)1972年
	高田 繁(巨)1972年	有藤 通世(口)1974年
	王 貞治(巨)1974年	福本 豊(急)1976~79年
	山本 浩二(広)1975~79年	梨田 昌崇(近)1979年
	飯田 哲也(ヤ)1992年	秋山 幸二(武)1990年
※丸数字は受賞回数	※球団表記は最終受賞時の層	所属 ※第48回(2019年度)現在





ですゴールデン選賞

「未来につながるものづくり」を 讃える

伝統文化における革新性とは何でしょうか。 三井広報委員会は、日本の伝統を継承しな がら未来につながるものづくりに真摯に取り 組み、さらに発展させている伝統工芸の担い 手の活動にそれを見出しました。

私たちはこの賞を通して、日本の伝統を次世 代につなぐ取り組みを応援していきます。

技術・技能、持続性、貢献度の3項目を審査基準とし、その 視点から未来につながる取り組みを評価。

賞の種類

審査員による審査で選出。

|名または|団体 審査員による審査により三井ゴールデ

ン匠賞受賞者の中から選出。 モストポピュラー賞 |名または|団体

一般の方に伝統工芸を身近に感じてい ただくことを目的とし、インターネットによる一般の方からの投票により、三井ゴー ルデン匠賞受賞者の中から選出。

第3回三井 ゴールデン匠賞受賞者



秋山 眞和氏/ 宮崎手紬(綾の手紬)



田山 貴紘氏/ (タヤマスタジオ(株)**) モストポピュラー賞



一瀬 美教氏 市川和紙



堤 卓也氏 ((株)堤淺吉漆店*)/ 漆精製·販売



※団体として受賞



岩清水 晃氏((株)岩鋳代表*)/南部鉄器 [モストポピュラー賞]

杉原 吉直氏/越前和紙

※団体として受賞

立川 裕大氏/伝統技術ディレクター

能作 克治氏((株)能作代表*)/高岡銅器 グランプリ 福島 武山氏/九谷焼



山本 篤氏/九谷焼

中川 政七氏/経営者 桐本 泰一氏/輪島塗 グランプリ 玉川 基行氏((株)玉川堂代表*)/燕鎚起銅器 [モストポピュラー賞]

齋藤 宏之氏/大洲和紙 ※団体として受賞



三井ゴールデン・グラブ賞を受賞した元 プロ野球選手を講師に招き、"守備"を 中心とした野球の基本技術とその指導方 法について分かりやすく教える「指導者 のための野球教室」を、年2回全国各地 で開催しています。

2010年よりスタートした本教室では、 子どもたちの身体に負担をかけない、ケ ガをしないための正しい練習および指 導方法について、講義と実技指導を行い ます。本教室を通じて指導者の皆さまに 正しい野球知識を習得し、日々の指導に 役立てていただくことで、ひたむきにプ レーする子どもたちの夢を応援します。









<三井グループ関連施設>

三井記念美術館

三井家旧蔵の優れた美術工芸品を所蔵・展示

三井記念美術館は、三井家が江戸時代から収集した美術工芸 品約 4,000 点、切手類約 13 万点を所蔵しています。

所蔵品は茶道具を中心に、絵画、書跡、刀剣、能面、能装束、 調度品など多岐にわたり、国宝6点、重要文化財75点、重 要美術品4点を含みます。

館蔵品の展覧会だけでなく、様々なテーマによる特別展を企 画・開催しています(常設展示なし)。

東京都中央区日本橋室町2-1-1 三井本館7階 TEL 050-5541-8600(ハローダイヤル) http://www.mitsui-museum.ip



三井記念病院

社会福祉の精神で慈善病院から発展

三井記念病院は、1909年、三井家からの寄付により「三井慈 善病院」として開院しました。

生活困窮者を対象に無料で治療を行うという開院趣旨を受け 継ぎ、「社会福祉の精神」のもと、100年以上にわたり高度な 医療を絶えず提供しています。

東京都千代田区神田和泉町 TFI 03-3862-9111 https://www.mitsuihosp.or.ip



インナーコミュニケーション

これまで広がり続けてきた三井グループ各社の繋がりをさらに強め、相互理解を深めて いくために様々な取り組みを行っています。グループコミュニケーション誌やポスターなど の発行・制作、研修会の開催などを通じて、三井グループの人と人を繋げていきます。

MITSUI Field



三井グループのコミュニケーション誌

三井グループ各社が活躍する分野(Field)と、そこで働く人々 を幅広く紹介する三井グループのコミュニケーション誌を年 4回発行しています。各社社員が相互理解を深め、三井ブラ ンドの向上をグループ内から促進する働きかけとして制作。 各社の最新事業から三井の歴史やゆかりの地、社員のオン・ オフタイムまで、毎号多彩な内容を掲載しています。

会員会社向け研修会





会員会社の相互理解と、 広報部門のレベルアップを目指して

会員各社の相互理解の促進と広報部門のレベルアップを目指 して各種研修会を開催しています。ディスカッションやグ ループワーク、施設見学会などを通じ、様々な発見や刺激を 得る"学びの場"を提供しています。

会員会社向けポスター



グループ意識の醸成・向上のために

会員各社におけるグループ意識の醸成と向上を目的に、毎年 インナー向けのポスターを制作しています。その年ごとに テーマを設け、会員各社の若手社員にモデルとして登場して いただきます。

DVD「三井のこころ」







9

(DVD 33分版·I5分版)

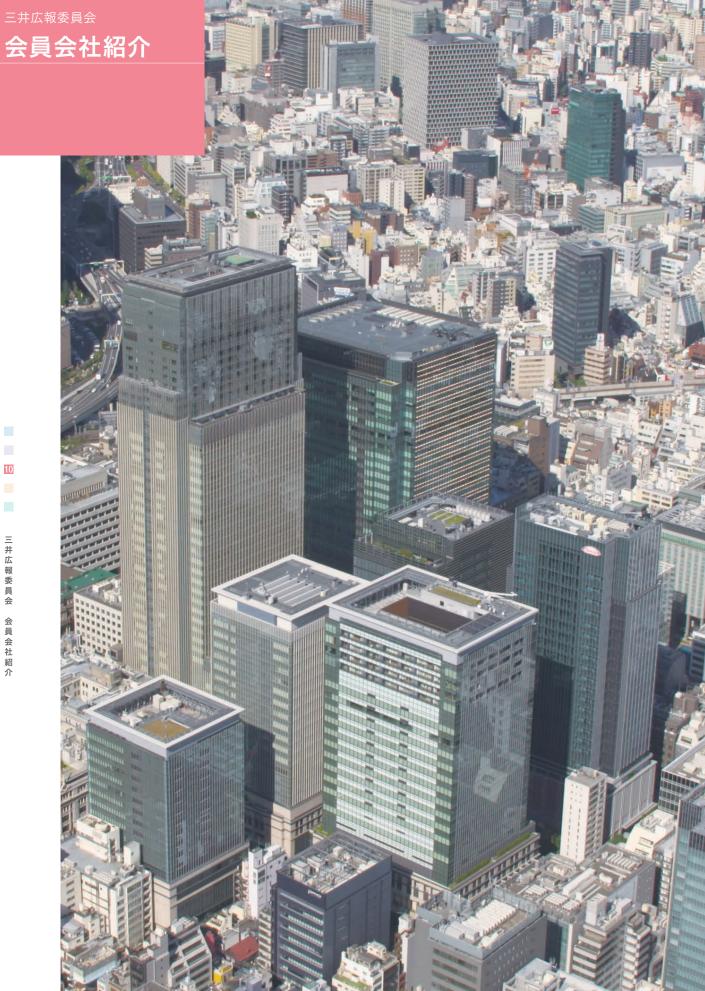
自由闊達な三井の気風を紹介する、 社員向けツール

340 余年の歴史を誇る、三井の事業精神や先見性・創造性を 改めて知っていただくため、グループ社員向けに制作した映 像ツールです。「三井家の由来」「三井の事業精神」「三井家 から三井グループへ」「人の三井」「三井グルー

プのこれまで、そして未来」の内容で構成して います。

※ ダイジェスト版を三井広報委員会HPでご覧いただけます。





上空から日本橋周辺の眺め。中央に見えるのは、日本橋室町三井タワー。



三機工業

SANKI ENGINEERING CO., LTD.

https://www.sanki.co.jp

〒104-8506 東京都中央区明石町8-1 聖路加タワー TEL 03-6367-7041



三機工業は、1925年の創業以来、建物に 様々な設備を提供することで、「建物に生 命を与える」仕事をしてきました。長年に わたり培ってきた技術を活かし、快適な ビル空間・産業空間を支える空調・給排 水・電気・情報通信などの建築設備、機 能的な搬送を実現する機械システム、水 処理、廃棄物処理設備を提供する環境シ ステム、金融機関の統合・移転をトータ ルサポートするファシリティシステムな ど幅広い事業領域をもつ「総合エンジニ アリング」会社です。また、ビル設備(BA) と情報通信(IT)を統合し、ビルの省エネ ルギーを推進するスマートビルソリュー ション、厨房設備・食品工場などの食空 間のトータルシステムの提案など、独自 のエンジニアリングも展開しています。 当社はこうした様々な技術を有効に組み 合わせてお客様にご提案し、持続可能な 社会づくりに貢献していきます。



新日本空調

SHIN NIPPON AIR TECHNOLOGIES Co., LTD.

https://www.snk.co.jp

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1 浜町センタービル TEL 03-3639-2700



新日本空調は、1930年の創業以来「技術の キヤリア」との呼び声も高く、世界を席巻 した高い技術とパイオニア精神は現在ま で脈々と受け継がれております。日本に おける空調のパイオニアとして、多くの 建物や施設で、付加価値の高い設備の施 工により重要な役割を果たし、空調を核 とした総合エンジニアリング企業として、 さまざまな社会課題の解決に向けた事業 を行っています。2019年10月に新たに 「企業理念『使命』と『価値観』」の制定と共 に、「ロゴマーク」も刷新し、将来起こり うる変化やその先の見通しに対して、柔 軟且つ機敏に対応できる企業グループで あるために、2030年を節目とした当社グ ループの 10 年ビジョン【SNK Vision 2030】 を定めました。2020年代も社会やお客様 から信頼され、健全に発展を続ける『100 年企業』へ向けた取組みを推進し、更なる 企業価値向上を目指してまいります。



三井住友建設

Sumitomo Mitsui Construction Co., Itd.

https://www.smcon.co.jp

〒104-0051 東京都中央区佃2-1-6 TEL 03-4582-3000



三井住友建設は、三井グループの総合建 設会社として、土木・建築・海外を3本 柱に事業展開しています。土木事業では、 業界トップクラスの技術と施工実績を誇 るPC(プレストレスト・コンクリート) 橋梁を中心に、山岳トンネル、シールド、 ダムなどの社会基盤整備に、先進の技術 で取り組み続けます。またリニューアル 関連の技術にも定評があります。建築事 業では、長年培ってきた超高層集合住宅 や実績豊かな免制震技術を中心に、事務 所ビル、商業施設、医療福祉施設や工場、 倉庫など、お客様のニーズに沿ったさま ざまな建物を提供しています。海外事業 では、東南アジア、インドを中心に、日 系企業の進出支援や ODA 事業を通じた資 本整備に取り組み、国際社会の発展に寄 与します。これらの事業を通じて「くらし をささえるものづくり」に取り組み、社会 の発展に貢献してまいります。

サッポロホールディングス

Sapporo Holdings Ltd.

http://www.sapporoholdings.jp

〒150-8522 東京都渋谷区恵比寿4-20-1 恵比寿ガーデンプレイス内 TEL 0570-200-533



サッポログループは「潤いを創造し 豊か さに貢献する」を経営理念に掲げ、新た な価値創造による持続的な企業価値向 上に取り組んでいます。創業150周年とな る2026年をゴールとする長期経営ビジョン 「SPEEDI50」を策定し、特長ある商品や サービスをグローバルに展開しながら『酒』 『食』『飲』で個性かがやくブランドカンパ ニーを目指しています。グループの成長の 源泉は、140年を超える歴史の中で培われた 「ブランド資産」と定め、お客様との対話か ら得られた気づきやヒントを糧に、イノベー ションや品質の向上を追求しています。酒 類事業、食品・飲料事業、また、グループ ゆかりの地である「札幌」「恵比寿」「銀座」 でのまちづくりに取り組む不動産事業ととも にブランドを磨き、お客様接点を拡大しな がら、力強い成長と誠実なグループであり 続けることによる企業発展、さらには持続 可能な社会づくりに貢献していきます。

TORAYInnovation by Chemistry

東レ

Toray Industries, Inc.

https://www.toray.co.jp

〒103-8666 東京都中央区日本橋室町2-1-1 日本橋三井タワー TEL 03-3245-5111



東レは、1926年に創業して以来、基礎 素材メーカーとして、繊維、樹脂、ケミ カル、フィルム、さらには炭素繊維複合 材料、電子情報材料、医薬・医療、水処 理・環境といった様々な分野において多 くの先端材料、高付加価値製品を創出し てきました。現在、日本を含む世界の 29 カ国・地域で事業を展開しており、 ものづくりの中核である日本国内で創出 した製品の用途開発を世界各地で行うこ とにより、グローバルな規模での持続的 な成長サイクルを実現しております。今 後も東レグループは、「安全・防災・環 境保全」並びに「企業倫理・法令遵守」を 経営の最優先課題に位置づけるととも に、「わたしたちは新しい価値の創造を 通じて社会に貢献します」という企業理 念のもと、社会に役立つ製品・サービス を提供することで、ステークホルダーの 皆様の期待に応えてまいります。

領域をこえま来へ

王子ホールディングス

Oji Holdings Corporation

https://www.ojiholdings.co.jp

〒104-0061 東京都中央区銀座4-7-5 TEL 03-3563-1111



王子ホールディングスは1873年の創業 以来、140年以上にわたり事業領域を拡 大し、成長を続けてきました。「革新的価 値の創造」、「未来と世界への貢献」、「環 境・社会との共生」を経営理念に掲げ、 2019年度から2021年度までの中期経営 計画では、「国内事業の収益力アップ」、 「海外事業の拡充」、「イノベーションの 推進」、「持続可能な社会への貢献」をグ ループの基本方針に据えています。国内 においては生産体制再構築、東南アジア を中心に段ボール事業や紙おむつ事業を 拡大しています。また、木質由来の新素 材開発に力を入れ、セルロースナノファ イバーの幅広い用途開発をはじめ、セル ロース由来のバイオマスプラスチック、 ヘミセルロース由来の医薬品開発等を進 めています。今後も、当社の事業そのも のが持続可能な社会に貢献できるよう取 り組んでまいります。

Denka

デンカ

Denka Co., Ltd.

https://www.denka.co.jp

〒103-8338 東京都中央区日本橋室町2-1-1 日本橋三井タワー TEL 03-5290-5055



デンカイノベーションセンター

デンカは 1915年の創立以来、カーバイ ドを製造する技術を活かし、様々な製品 を生み出してきました。現在では有機、 無機の各種素材から電子材料、医薬に至 る幅広い分野で事業を展開しています。 2018年4月にスタートした経営計画 「Denka Value-Up」では、企業の成長持 続に必要不可欠な「安全最優先」「環境 への配慮」「人財の育成・活用」「社会 貢献」を基本精神に掲げ、新たな成長戦 略により、「スペシャリティーの融合体 "Specialty-Fusion Company"」となり、「持 続的成長」かつ「健全な成長」の実現を目 指します。私達は企業理念「The Denka Value」で掲げた、Denka の使命「化学の 未知なる可能性に挑戦し、新たな価値を 創造(つくる)ことで、社会発展に貢献す る企業となる」を胸に、社会から信頼さ れる企業グループとして、未来に向け何 をすべきかを考え、行動してまいります。



三井化学

Mitsui Chemicals, Inc.

https://jp.mitsuichemicals.com

〒105-7122 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター TEL 03-6253-2100



三井化学の起源は1912年に遡ります。当 時の社会課題であった食糧増産のため、 日本で初めて石炭副生ガスから化学肥料 原料を生産し、農業の生産性向上に大き く貢献しました。その後、石炭化学からガ ス化学へとテクノロジーを進化させ、1958 年には日本初の石油化学コンビナートを 築き、日本の産業界を牽引してきました。 今では数多くの世界トップ製品を有して おり、世界30の国と地域に150社以上を 抱えるグローバル企業へと成長していま す。その事業ポートフォリオは、環境に優 しい次世代自動車材料、健康・安心な長 寿社会を実現するヘルスケア、食品の安 心安全を守るパッケージ、食糧増産に貢 献する農業化学品、電子材料、環境エネ ルギー分野と多岐に亘っています。三井化 学は、今後も卓越したソリューションと「新 たな顧客価値の創造」を通じ社会課題の解 決に貢献してまいります。

JSW

日本製鋼所

THE JAPAN STEEL WORKS, LTD.

https://www.jsw.co.jp

〒141-0032 東京都品川区大崎I-II-I ゲートシティ大崎ウエストタワー TEL 03-5745-2001



広島製作所

日本製鋼所は 1907 年から 100 年余にわたり、最先端技術により国内外のお客様のニーズにお応えし続けてきました。現在では、プラスチックの基礎材料ペレットの製造から、最終製品の成形に至るまでの各種機械、レーザー応用製品を中心とした産業機械事業をグローバルに展開しております。

当社はこれからも、創業以来、追求してきた「ものづくり」と「価値づくり」で安定成長企業を目指し、買い手よし(顧客満足)、売り手よし(従業員満足)、世間よし(社会的責任遂行)、株主よし(株主満足)の「四方よし」の精神で、変化する社会とお客様のご要望に応えられるよう、社会の発展に貢献してまいります。

◆ 三井金属

三井金属

MITSUI MINING & SMELTING CO., LTD.

https://www.mitsui-kinzoku.com

=141-8584 東京都品川区大崎|-||-| ゲートシティ大崎ウエストタワー TFI 03-5437-8000



奈良時代養老年間の昔から 1200 年以上 の歴史と東洋一の規模を誇った神岡鉱山。 1874 年(明治7年)、三井組がこの鉱山の 経営を開始したことが当社事業の起源で す。以来、国内外で鉱山開発・製錬事業 を展開、さらには様々な廃棄物から有価 金属を回収するリサイクル製錬を展開・ 強化し、産業の基礎素材である亜鉛、銅、 貴金属などを安定的に供給し続けていま す。また、「マテリアルの知恵を活かす」 というスローガンのもと、素材技術の深 化により生み出された排ガス浄化用触媒、 銅箔、ITO ターゲット、自動車用ドアロッ クなどの商品は世界トップシェアの一角 を占めており、ハイブリッドカーなどのエ コカーに使用される電池材料も開発・製 造しています。これからも三井金属は、 価値ある商品によって社会に貢献してい きます。



東洋エンジニアリング

Toyo Engineering Corporation

https://www.toyo-eng.com

〒275-0024 千葉県習志野市茜浜2-8-1 TEL 047-451-1111



東洋エンジニアリングは、さまざまな国・ 地域でエネルギー開発案件や素材を供給 するプラント建設プロジェクトを手がけて きました。海外のグループ企業とグローバ ルネットワーク体制を構築し、石油や天然 ガス利用に向けた産業施設や製造設備、電 力供給や水資源活用、交通システムなどイ ンフラストラクチャーの設計・調達・建設 を行っています。関連する技術提供や、商 業化支援、運転支援、コンサルティング にいたるまで、お客様のビジネスシステ ムやバリューチェーンを最適化し、新しい 企業価値を創出するための問題解決の提 案と実現手段を提供してまいります。当社 グループは、その使命である「Engineering for Sustainable Growth of the Global Community」を果たすために、技術を統合 し全体システムの最適化を実現するエンジ ニアリングの遂行を通じて、社会に貢献す ることを目指しています。



三井E&Sホールディングス

Mitsui E&S Holdings Co., Ltd.

https://www.mes.co.jp

=104-8439 東京都中央区築地5-6-4 TEL 03-3544-3147



1917年(大正6年)、旧三井物産造船 部として誕生した三井造船は、創業か ら 101 年目を迎えた 2018 年 4 月、持株 会社体制への移行とともに商号を「三井 E&S ホールディングス」に変更。「三井 E&S グループ」として新たな一歩を踏み 出しました。「E&S」は、三井造船のルー ツである Engineering & Shipbuilding を 由来としていますが、それにとどまら ず Environment・Energy (環境・エネル ギー)、Social Infrastructure (社会・産 業インフラ)、Solution (課題解決)など、 幅広い事業領域で多彩なソリューション を展開していく企業姿勢を込めています。 物流の要となる船舶から船舶の動力源で あるディーゼルエンジン、産業機械、プ ラントエンジニアリング、海洋資源開発 まで。わたしたちは、価値ある製品・サー ビスを提供するエンジニアリングチーム として、次世代の夢を形にしていきます。



商船三井

Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.

https://www.mol.co.jp

=105-8688 東京都港区虎ノ門2-1-1



商船三井は、鉄鉱石、石炭、木材チップ などを運ぶばら積み船、原油を運ぶタン カー、液化天然ガスを運ぶ LNG 船、自 動車船、さまざまな製品を運ぶコンテナ 船、洋上での石油・天然ガス開発等に携 わる海洋事業、海と陸を結ぶターミナル・ ロジスティクスサービスなど、多彩な分 野で時代の要請に応える総合輸送グルー プです。海運を中心に広がるビジネスを、 グループの総合力として結集し、世界の 暮らしと産業を支えています。世界最大 級の船隊と、130年余の歴史で培った経 験と技術で展開する活動に、国境はあり ません。私たちは、強くしなやかな企業 グループを目指し、安全運航と海洋・地 球環境保全に努めながら地球全体を舞台 として、世界経済の発展に貢献してまい ります。



三井物産

MITSUI & CO., LTD.

https://www.mitsui.com

〒100-8631 東京都千代田区大手町1-2-1 TEL 03-3285-1111



「OTEMACHI ONE ※右側が三井物産ビル」

三井物産は、「必要なモノやコトを、必要 としている人々にお届けする」という使命 を果たすため、さまざまな分野で国・地域 やお客様、人やモノ、事業や情報、アイ デアや技術などをつなぎ合わせ、その中 から新たな事業や価値を創出しています。 マーケティング、事業開発、事業経営、口 ジスティクス、ファイナンス、リスクマネ ジメント、デジタルトランスフォーメー ションを通じた価値創造を鉄鋼製品、金 属資源、エネルギー、機械・インフラ、化 学品、生活産業、次世代・機能推進といっ たあらゆる分野において多種多様な事業 知見と組み合わせ、日本および世界各地 のお客様のニーズに応えるサービスやソ リューションを提供しています。



三越伊勢丹ホールディングス

Isetan Mitsukoshi Holdings Ltd.

https://www.imhds.co.jp/

〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-5 三越伊勢丹西新宿ビル TEL 03-6730-5003



三越伊勢丹グループは、創業以来、常に 時代の変化に合わせてビジネスモデルを 革新し、お客さまとモノ・コトをつなぎ、 進化し続けてきました。コロナ禍で大き な影響を受けながらも、お客さまと従業 員の安心・安全を最優先に、我々を取り 巻く急速な環境の変化をチャンスと捉 え、今まで以上に大きな変革にチャレン ジしていきます。私たちの強みであるブ ランド・お客さま・人材・不動産・国内 海外店舗と事業を IT・店舗・人の力でつ なぎ、新時代の百貨店を創り上げていき ます。また、変化する社会課題や要請に お応えすることでお客さま、株主・投資 家の皆さまをはじめ、お取組先、従業員、 地域社会などすべてのステークホルダー の皆さまとの信頼関係を築きながら、企 業価値を高め、持続的な成長を続けてい きます。

三井住友海上

Mitsui Sumitomo Insurance Company, Limited

https://www.ms-ins.com

〒101-8011 東京都千代田区神田駿河台3-9 TEL 03-3259-3111



三井住友海上は2001年10月に、三井海上と住友海上の合併により誕生しました。 2010年4月には、三井住友海上グループ、あいおい損保、ニッセイ同和損保が経営統合し、「MS&ADインシュアランスグループ」が発足しました。

三井住友海上は、グループの中核事業会社として、「グローバルな保険・金融サービス事業を通じて、安心と安全を提供し、活力ある社会の発展と地球の健やかな未来を支える」ことを経営理念に、その実現に向けて取り組んでいます。

今後も、三井住友海上は、社会環境の変化に伴う新しいリスクや多様化するお客さまニーズに迅速かつ柔軟に対応した商品・サービスを提供していきます。



三井住友銀行

Sumitomo Mitsui Banking Corporation

https://www.smbc.co.jp

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-1-2 TEL 03-3282-1111



三井住友銀行(SMBC)は、2001年4月にさくら銀行と住友銀行が合併して発足しました。2002年12月、株式移転により持株会社である三井住友フィナンシャルグループ(SMFG)を設立し、その子会社となりました。2003年3月には、わかしお銀行と合併しています。三井住友銀行は、国内有数の営業基盤、戦略実行のスピード、さらには有力グループ会社群による金融サービス提供力に強みを持っています。三井住友フィナンシャルグループの下、他の傘下グループ企業と一体となって、お客さまに質の高い複合金融サービスを提供していきます。



三井住友ファイナンス&リース

Sumitomo Mitsui Finance and Leasing Company, Limited

https://www.smfl.co.jp

〒100-8287 東京都千代田区丸の内1-3-2 TEL 03-5219-6400



三井住友ファイナンス&リース(SMFL)は、国内トップクラスの総合リース会社です。これまでに培った専門性やグループの総合力を駆使して、お客さまの設備投資や販売活動に役立つさまざまな金融サービスを提供しています。また、成長が続くグローバル市場では、お客さまの海外展開をサポートするとともに、世界屈指の航空機リース事業をはじめとするトランスポーテーション分野に注力しています。

社会の変化を捉えた高度なサービスの 開発や事業領域のさらなる拡大を図っ てまいります。また、環境エネルギー、 デジタル、地域社会等に関する取り組 みを加速させ、社会の持続的発展に貢献していくことで、次世代に選ばれる企 業を目指します。



JA三井リース

JA MITSUI LEASING, LTD.

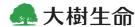
https://www.jamitsuilease.co.jp

〒104-0061 東京都中央区銀座8-13-1 銀座三井ビルディング TEL 03-6775-3000



JA 三井リースは、三井グループ各社と JA グループの出資により設立された総 合リース会社です。農林水産分野にお ける独自展開や製造設備、輸送機器、 不動産などのアセットビジネスにおけ る専門性・オリジネート力を強みとし、 社内外のネットワークを「つなぐ、つな げる」ことにより、金融の枠組みを超え たソリューションを国内外のお客様に 提供しております。

デジタルトランスフォーメーションや新しい生活様式の進展など変化の激しい時代において、企業が直面する課題も多様化・複雑化しておりますが、JA三井リースは、経営理念「Real Challenge, Real Change」に掲げる「より良い社会と未来」の実現のため、お客様のビジネスへの思いに寄り添い、ともに課題解決に向けて挑戦を続けてまいります。



大樹生命

TAIJU LIFE INSURANCE COMPANY LIMITED

https://www.taiju-life.co.jp/

〒135-8222 東京都江東区青海I-I-20 TEL 03-6831-8000



1927年に「三井生命保険株式会社」として 創業した当社は、2016年4月に日本生命 保険相互会社との経営統合による新体制 を発足し、2019年4月に「大樹生命保険 株式会社」に社名を変更しました。社名の "大樹"には、「しっかりとお客さまを守り、 よりそっていく」という生命保険会社とし て大切にしている想いを重ね合わせ、"大 樹"のように「しっかりと大地に根を張り、 晴れの日も雨の日もしっかりとお客さまを 守り、多くの人が集まっていく保険会社 を目指そう」という想いを込めました。 これからも当社は、お客さまの「BESTパー

これからも当社は、お客さまの「BEST パートナー」として、様々なニーズに応える保険商品の提供やサービスの向上に取り組むとともに、生命保険会社としての社会的使命を全うし、全てのステークホルダーの方々にご安心を提供できる生命保険会社となることを目指してまいります。



三井住友トラスト・ホールディングス

Sumitomo Mitsui Trust Holdings, Inc

https://www.smth.jp

〒100-8233 東京都千代田区丸の内1-4-1 TEL 03-6256-6000



2011年4月、中央三井トラスト・ホールディングスと住友信託銀行が経営統合し、持株会社「三井住友トラスト・ホールディングス株式会社」は発足しました。また、2012年4月、傘下の信託銀行3社の合併により、新たに「三井住友信託銀行」が誕生しました。

三井住友トラスト・グループは信託の受託者精神に立脚し、高度な専門性と総合力を駆使して、銀行事業、資産運用・管理事業、不動産事業を融合した新しいビジネスモデルで独自の価値を創出する、本邦最大かつ最高のステイタスを誇る信託銀行グループとして、グローバルに飛躍してまいります。



二十十割性 MITSUI FUDOSAN

三井不動産

Mitsui Fudosan Co., Ltd.

https://www.mitsuifudosan.co.jp

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町2-1-1 TEL 03-3246-3131



三井不動産は、旧三井合名会社所有の不動産経営を主たる目的として、1941年に設立されました。その後、時代の変化に対応し、オフィスビル、商業施設、住宅、ホテル・リゾート、物流施設、資産活用コンサルティングなどの不動産事業を中心に、国内外の幅広い分野でグループ事業を展開しています。現在、グループ長期経営方針「VISION 2025」に基づき、不動産業そのもののイノベーションとさらなるグローバリゼーションを推進しています。。

当社グループは、これまでも「&」マークに 象徴される「共生・共存」「多様な価値観の 連繋」「持続可能な社会の実現」の理念のも と、ESG課題に対する様々な取り組みを 行ってまいりました。

今後もグループ社員一丸となり、街づくりを 通して持続可能な社会の実現に貢献してま いります。



三井倉庫ホールディングス

MITSUI-SOKO HOLDINGS Co., Ltd.

https://www.mitsui-soko.com

〒105-0003 東京都港区西新橋3-20-1 TEL 03-6400-8000



三井倉庫グループは、1909年の創業以来、多様化する社会やお客様のニーズに100年以上にわたりお応えし続けております。日々の快適な生活を支えているさまざまな製品や情報資産などを大切にお預かりするという倉庫業で培ったDNAをもとに進化を続け、現在では製造工程における構内物流から、陸・海・空の輸送、保管から配送など、物流の川上から川下まで全てのニーズに対応しうる物流機能を総合的に揃えるに至りました。

私たちは常にお客様の視点に立ち、お客様が考える「価値」を共有し、お客様の課題に真摯に向き合い、共により良い社会の実現を目指す総合物流企業であり続けたいと考えております。

お客様から信頼され、最初に相談していた だける「ファーストコールカンパニー」となる べく、三井倉庫グループは一丸となってこ れからも皆様と共に歩んでまいります。



エームサービス

AIM SERVICES CO., LTD.

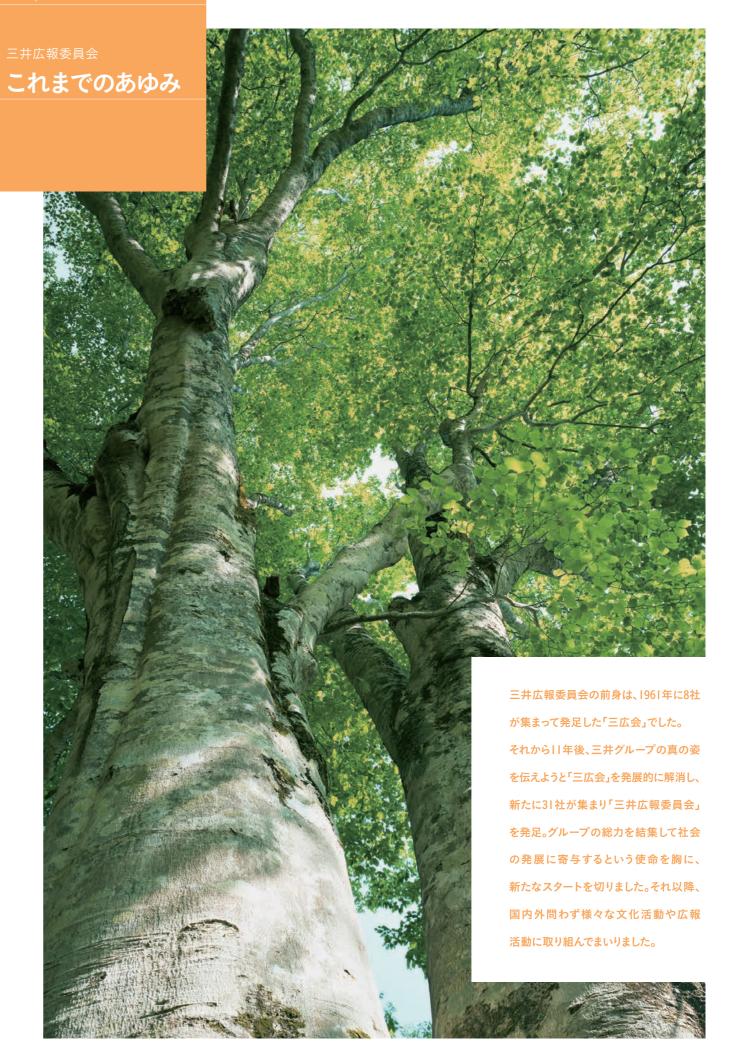
https://www.aimservices.co.jp

〒107-0052 東京都港区赤坂2-23-1 アークヒルズフロントタワー TEL 03-6234-7500



エームサービスは 1976 年、三井グループ企業と米国のサービスマネジメント大手アラマーク社の合弁で設立された給食事業を中核とする企業で、お客様のおもいを感じ、それをカタチにしてこたえていく、オンリーワンのホスピタリティサービス・カンパニーを目指しています。現在は、オフィス・工場・病院・学校・刑事施設・レクリエーション施設・トレーニング施設・スポーツスタジアム・エンターテインメント施設など、グループ全体で約3,900カ所の様々な施設において1日約130万食を提供。

乳幼児期から高齢期まで、生涯にわたる Life Stage のあらゆる場面で、各種健康 プログラムの提供や食育など、"「食」か ら日本の未来を支える"活動を展開して います。 History



19

18

会が

発

● 三井物産が三井グループの

PR誌「三井グラフ」を創刊。

創刊号の特集は、同年開催

された「日本万国博覧会」。

三井グラフト1 & 千里の丘に いま世界は一

● ロサンゼルス上空に日本語の文字「三

井グループ」を描き出したコマーシャル

が、「日本民間放送連盟年間表彰・テ

レビコマーシャルの部」で金賞受賞。

1970

1972

[昭和47年]

委員会」発足。

ある。

●三広会を発展的に解消し、「三井広報

●「兼高かおる 世界の旅」の提供も三井

広報委員会となる。三井グループといえ

ば「兼高かおる 世界の旅」といわれる

ほど人々に親しまれ、三井グループのイ

● 三井物産スポーツ用品販売がプロ野球

セ・パ両リーグに申し入れていた「ダイヤ モンドグラブ賞」の制定が承認される。

現在の「三井ゴールデン・グラブ賞」で

三井広報委員会 発足

グループ31社が参加

「三井広報委員会」の発足を伝える 1972年3月30日付けの三友新聞

三友新

メージアップに貢献した。

● 三井物産より「三井グラ

フ」の企画・編集・発行

を引き継ぐ(42号より)。

[昭和56年]

●360度のパノラマ展望が楽しめる東京・ 霞が関ビルの36階に、三井グループの活 動をパネルや写真で紹介する「三井スカ イプロムナード」をオープン。連日500人 近い入場者でにぎわう(1990年終了)。



1980_{ft}

21

●「兼高かおる 世界の旅」の提 供を終了し、新たにクイズ番組 「世界をあなたに」を提供。

1978

「昭和53年]

済、文化、芸術などを紹介しながら、日本との 関係をテーマにした教養番組「世界にかける 橋」の提供開始、1982年まで続ける。80年か らは、番組中に鳥飼玖美子さんの「ワンポイ ント英語コーナー」を設けて好評を博す。



の「ワンポイント英語コーナー」

●「世界をあなたに」に替わり、世界各国の経



テレビ番組「世界にかける橋」に登場した鳥飼玖美子さん

42

三井広報委員会発行となり最初の「三井グラフ」42号

● 三井広報委員会の前身である「三広会」発足。

● 三井物産が提供していたテレビ番組「兼高かお

る世界の旅」が三広会の提供となる。女性ジャー

ナリストの兼高さんが旅をしながら世界各地を

紹介するもの。63年から10年間、番組内で「三井

クイズ」を行い、当選者39名を香港やパリに招

待。人気教養番組として注目を集める。

0

1960 Fee

20

1960年12月、東京都中央区日本橋室 町にある三井本館に、三井銀行(現・三 井住友銀行)、三井物産、三井化学工業 (現・三井化学)、三井金属、三井石油化 学工業(現・三井化学)、三井精機工業、 三井造船(現・三井 E&S ホールディング ス)、三井船舶(現・商船三井)の8社が 集まり、三井グループとして国内外向 けに広告宣伝を共同で行うことを目的 に、1961年1月1日を期して現在の「三 井広報委員会」の前身となる「三広会」を 設立することが決まりました。当時は戦 後の成長期の中で各企業グループの求心 力が求められていた時期で、すでに三菱 グループや住友グループでは共同でテレ ビ番組を提供するなどしており、三井グ ループ内でも PR の共同化を求める声が

時に、当時三井物産が提供していたテレ ビ番組『兼高かおる 世界の旅』のお正月 特別番組にグループ各社で共同参加する という形で、三井グループの PR を具体 化。同年7月からは三井物産の単独提供 から三井グループの共同提供に変わり、 1972年には現在の三井広報委員会へと 引き継がれ、三井グループとして 16年 間にわたってスポンサーを務めました。

「三広会」を発展的に解消し、 新たに「三井広報委員会」が発足

1972年4月、三広会を発展的に解消し、 三井広報委員会を発足。三広会は、企業 が単に経済活動を行っていけば良いとい う時代は終わり、これからは企業も社会 との調和や社会貢献に努力していかなけ ればならないこと、また、三井グループ が発展していくためには、「グループの 考え」や「グループの真の姿」を社会に伝 えて"理解"を得ることが必要であり、

社会に認められるための"努力"が重要 であると考えました。そして、三井グ ループの真の姿を社会にアピールするた めには、個々の企業がそれぞれ単独に努 力するだけでなく、グループ企業が総力 を結集して一企業では成し得ないような スケールと内容をもって社会貢献を行う ことが不可欠であることから、当時 19 社で構成されていた三広会をさらに拡充 し、新たにグループ31社を結集した三 井広報委員会をスタートさせました。三 井広報委員会の目的は、国内や海外にお ける三井グループの広報活動を推進し、 社会の繁栄と福祉に寄与する三井グルー プのイメージを高めて広く内外に定着さ せることにあり、この目的を達成するた めに常に会員各社が知恵を出し合いなが ら時代の要請に的確に応える活動を展開 し、今日に至っています。

『三井グラフ』が三井広報委員会の 広報誌となる(1980~2005)

1980年、三井広報委員会は三井物産が 1970年より発行してきた広報誌『三井グ ラフ』(季刊)を 42 号から引き継ぎ、グ ループ外へ向けての PR 誌として編集発 行。三井グループの活動を広く一般の方 に知ってもらい、そのイメージアップを 図ることを目的にスタートさせました。 1990年には当初の「三井グループ外向け の PR 誌」というコンセプトを、グルー プ各社社員にも三井広報委員会の活動 を理解してもらうために「三井グループ 内外向け PR 誌」に改め、全国の図書館、 宿泊施設、病院などやグループ各社に配 布し、グループ内外に幅広く親しまれる 広報誌を目指しました。

(2005年 141 号をもって休刊)

全国各地へ日本を代表する 知性との出会いの場を提供する 『三井シンポジア・トゥモロウ』 $(1983 \sim 98)$

1980年代、首都圏のみならず全国各地の 産業や文化が活発になっていく時代潮流 の中、三井広報委員会は各地の文化活動 を応援していく方針を決め、その具体化 を探っていました。そこで、1974年から 三井物産が各都市で開催していた地域文 化の活性化に貢献する三井教養セミナー 「学びの出発」を引き継ぐかたちで更に内 容を充実させ、1983年からは地域社会の 主体性と参加性を重視した新しいシンポ ジウム形式の文化活動『三井シンポジア・ トゥモロウ』をスタートさせました。コン セプトは、"学び・考える"ことに真剣に 取り組んでいながら中央の文化に接する 機会の少ない全国各地の人たちに、日本 を代表する優れた知性との出会いを提供 しようというもので、地元の自主性にポ

イントを置いた地元主導型のセミナー(講 演会)として行うところが大きな特徴でし た。しかし、スタート当時は珍しかった この種のセミナーも、90年代に入ると全 国各地で頻繁に行われるようになり、"開 拓者"としての役割は終わったとの認識 で、1998年3月を最後に終了することに なりました。『三井シンポジア・トゥモ ロウ』は、16年という長期間にわたって、 全国約370ヵ所で開催され、その聴講者 の数は延べ 13万人以上となりました。

日本の現代文化を海外に紹介する 『クロースアップ・オブ・ジャパン』 **をスタート**(1983~98)

経済大国として世界経済への日本の影響 力が大きくなるにつれて諸外国からの誤 解や摩擦が増え、深刻な問題になりつつ あった80年代。原因が、相互のコミュニ ケーション不足とカルチャーギャップに あるのは明らかでした。世界と日本の相

高まっていました。三広会は設立と同

1970_{fr}

●日本の現代文化を海外に紹介し、国際間 の相互理解を深めることを目的とした国際 文化交流事業「クロースアップ・オブ・ジャ パン」の第1回をサンフランシスコで開催。 日本の"生の文化"を紹介する民間初の文 化交流活動として、国内外で注目を集める。





三宅一生 ボディ・ワークス

● ロンドンで開催された「第2回クロースアッ プ・オブ・ジャパン」には当時皇太子の 浩宮殿下(今上天皇)が来場されるなど、 皇室の方々や各国の重鎮も来場された。



セレモニーには浩宮殿下も来場

1986

●三井広報委員会が従来の「ダイヤモンドグラ ブ賞」の提供を引き継ぎ、「三井ゴールデン・グ ラブ賞」と名称を改め、新たなスタートを切る。



第15回三井ゴールデン・グラブ賞」の表彰式

[昭和63年]

●世界各国の代表的な現代演劇人 やグループなどを招いて、生のス テージを紹介する「三井フェスティ バル東京」をスタートさせ、1996年 まで隔年で計5回開催。演劇をはじ め、ダンス、パントマイムなど日本で 初めて紹介されたプログラムも多 く、観客に新鮮な感動を与える。



韓国の演劇のほか、フランスとブラジルのダン ス、インドの古典舞踏を紹介

● 三井広報委員会創立20周年を記念して「山下洋輔 ピアノコンサート」を開催。



三井広報委員会20周年記念「山下洋輔ピアノコンサート」

1995

[平成7年]

●「三井グラフ」100号記念号を 発行(創刊25周年)。その後 2005年141号をもって休刊。

1998

- ●「三井シンポジア・トゥモロウ」の特別企画「誰でもわかるオペラ入門」を 東京で開催。
- ●「クロースアップ・オブ・ジャパン」や「三井フェスティバル東京」などの文化 活動が国際交流に果たした貢献度が評価され、外務大臣表彰を受ける。
- ●「クロースアップ・オブ・ジャパン」「三井シンポジア・トゥモロウ」などの文化 事業を見直し、新たな文化支援活動「三井コラボレーション」をスタート。 国内第1弾は沖縄県那覇市でりんけんバンドとの共演による「国府弘子 サウンドスケッチinジャパン」。



小渕恵三外務大臣(当時)から「外務大臣表彰」を 受ける八尋会長(当時)



-ション」記者発表会(1998年12月)

1990 Fre

互理解の溝が深まっていく現実を目の当 たりにし、孤立感を強めていく日本の状 況を憂慮した三井広報委員会では、現代 の文化を中心として日本のありのままの 姿を世界中の人々に紹介し、そこから日 本に対する真の信頼と理解を得ることを 目的とした企画を検討しました。それが 『クロースアップ・オブ・ジャパン』とい うかたちになり、1983年にスタートする ことになったのです。それまでの日本の 紹介といえば、貿易を目的とした商品の 展示や古い伝統芸術の紹介がほとんどで したが、現代の日本の文化が欧米の文化 先進国と比べても決して見劣りしないこ とを示すために日本の多彩な現代文化を 紹介することに主眼を置いた、民間とし て初めての試みとなりました。第1回は 1983年9月からサンフランシスコで開催 され、以降は毎年、ロンドン、ニューヨー ク、ミネアポリス&ロサンゼルス、パリ、 シドニー、バンコク、トロント、クアラ

ルンプール、ベルリン、リスボン、アト ランタ、サンパウロ&リオ・デ・ジャネ イロ、ジャカルタ、ニューデリー、モス クワと、16年にわたって世界18都市で 開催し、皇室の方々や各国の重鎮が来場 されるなど注目度も高く、毎回熱狂的と もいえる大きな反響を呼びました。優れ た日本文化は世界的にも第一級の文化で あることが海外の人々にも理解され、文 化によるコミュニケーションの輪が大き く広がりました。『クロースアップ・オブ・ ジャパン』は1998年のモスクワを最後に、 新たな文化支援活動『三井コラボレーショ ン』に引き継がれることになります。

プロ野球の守備の ベストナインに贈られる 『三井ゴールデン・グラブ賞』の スポンサーに (1986~)

1986年12月、プロ野球の守備のベスト ナインに贈られる『三井ゴールデン・グラ ブ賞』の表彰式が東京・大手町の三井物産 本社で盛大に行われました。前年度まで は三井物産スポーツ用品販売が提供スポ ンサーとなり『ダイヤモンドグラブ賞』の 名称で表彰が行われていましたが、第 I5 回を迎えたこの年度から三井広報委員会 が提供を受け継ぐこととなり、名称も『三 井ゴールデン・グラブ賞』に改め新たなス タートを切った最初の表彰式でした。そ れまでの表彰は、翌年の開幕戦時期に受 賞選手に対して個別に行われていました が、この年度からプロ野球シーズン後に 受賞選手全員を一堂に集めて表彰するこ ととなり、表彰式は一層華やかなものに なりました。また、表彰式には都内の養 護施設の子どもたちを招待し、表彰式後 の懇親パーティで憧れの選手とにこやか に話す風景なども見られました。2008年 からは表彰式の開催を夜から昼にうつし、 毎年多くの報道陣が集まるなか、その年 の守備のベストナインの表彰に注目が寄

せられています。『ダイヤモンドグラブ賞』 として本賞が制定された 1972 年から 40 周年にあたる 2011 年には、記念特別番組 (BS フジ)や記念冊子を制作し、40年の 軌跡をあらためて振り返りました。

東京で本格的な国際舞台芸術祭 『三井フェスティバル東京』を 隔年開催 (1988~96)

三井広報委員会は、内から外への国際 交流として『クロースアップ・オブ・ ジャパン』を世界各地で開催しましたが、 1988年からは外から内への文化事業と して、東京で本格的な国際舞台芸術祭『三 井フェスティバル東京』の開催をスター トさせました。当時、世界各地で舞台芸 術のフェスティバルは盛んに行われてい ましたが、国内ではほとんど実績が無く、 国際都市・東京に世界の舞台芸術が集ま る祭典がないのはいかにも寂しいという ことで、東京で初めて国際的な芸術祭を

開くことになりました。『三井フェスティ バル東京』は、1988年から96年までの 隔年に計5回開催し、日本の舞台芸術界 に大きな足跡を残しました。

三井広報委員会の20周年を記念し、 『山下洋輔ピアノコンサート』を開催

1992年は、三井広報委員会が発足してか らちょうど 20 周年、『クロースアップ・ オブ・ジャパン』のスタートから IO 年目 に当たる年となり、これを記念してII 月に東京・池袋の東京芸術劇場大ホール で『山下洋輔ピアノコンサート』を開催し ました。コンサートは『クロースアップ・ オブ・ジャパン"トロント 1990"』でのコ ンサートを再現したもので、和太鼓のレ ナード衛藤氏との二重奏や井上道義氏指 揮の新日本フィルハーモニー交響楽団と の協奏「ラプソディー・イン・ブルー」も 演奏され、会場を熱気の渦に巻き込みま した。コンサートの後、会場に隣接する ホテルで20周年記念のレセプションを 開催し、各界諸氏やマスコミ関係者など 約400人が列席。挨拶に立った八尋俊邦 三井広報委員会会長(当時)は、「三井グ ループの文化支援活動を景気の動向など に左右されることなく持続させ充実させ ていく」と力強く誓い、会場は大きな拍 手に包まれました。

三井広報委員会の国際文化支援活動 が『外務大臣表彰』受賞

1998年7月8日、『クロースアップ・オ ブ・ジャパン』などの開催を通して国際 文化交流の推進に貢献した功績に対し、 外務省から『平成 10 年度外務大臣表彰』 が授与されました。授賞理由は「同団体 は三井グループ各社が参加して、わが国 の現代芸術を海外に紹介する『クロース アップ・オブ・ジャパン』を諸外国にお いて毎年開催、さらに外国の舞台芸術を わが国に紹介する『三井フェスティバル

●三井の事業精神や先見性、創造性 をグループ各社に改めて知っていた だくことを目的に、DVD「三井のここ ろ」を制作。



[平成12年]

- ●「三井コラボレーション」海外第Ⅰ弾は 1999日中文化友好年事業の一環とし て、日本側の主役に和泉元彌氏を起用 した楽曲劇「天人」を北京で開催。
- 社会貢献活動の一環として、障がいのあ る方々が働く小規模共同作業所で作ら れた商品を販売する「ふれあいマーケッ ト」のI回目を「三井コラボレーション」 の会場(札幌)で開催。



●日蘭交流400周年を記念して「三井コ ラボレーション」の海外第2弾「安倍圭 子マリンバコンサート」と、CGアーティス ト・原田大三郎氏とテクノミュージシャ ン・スピーディJ氏のコラボレーションラ イブをオランダで開催。

● coba氏プロデュースの「三井コラボレー ション『光と音のページェント"天使は空 から降ってくる"』」を福岡で開催。



coba氏プロデュース「三井コラボレーション『光と音

● 「三井コラボレーション『リーディングドラマ"天国の本 屋"』」を開催。以降も各地で再演を重ねる。

- 芝居と音楽を融合した「三井コラボレーション『ドラマ コンサート"ミッシング・ピース"』」を東京で上演。
- ●イギリスにおける日本年JAPAN 2001の公式行事とし て、「三井コラボレーション」の海外第3弾「仮面舞踏劇 『天照』、「ジミー大西×ジェーン・パッカー エキシビ ション『Energy of Nature』」をロンドンで開催。



「リーディングドラマ『天国の本屋』



「仮面舞踏劇『天昭 AMATERASU, The Sun Goddess』」



ション『Energy of Nature』」

協賛(主催:朝日新聞社)。

[平成15年]

●「ジミー大西展『Energy of Nature』」を恵比寿ガー

デンプレイス、京都駅コンコースにて開催。その後、

2004年5月まで全国通算13ヵ所で開催される「ジ

ミー大西絵画展『世界を巡る絵筆の冒険』」に特別

● 文化・教育・福祉の支援プログラムとして全 国各地にクラシックの演奏家を派遣する「ふ れあいトリオ」をスタート。2008年までに、北 海道根室から鹿児島県沖永良部島まで、全 国各地で約250公演を行う。



●三井グループおよびグループ各社の 「人」に焦点を当てた社会貢献活動や さまざまな取り組みを総称したPR「三井 ヒューマンプロジェクト」をスタート。



| Made A Tri- order and | American Column | Amer ○ 三井広報委員会 (85.10% 00.10% 00.10% 00.10% 10.00% 「三井ヒューマンプロジェクト」新聞広告

(日経新聞 2009年4月2日付)

2000年代

東京』を隔年開催し、これらの事業を通 じて我が国と諸外国との国際文化交流お よび相互理解の増進に多大な貢献をされ た(要旨)」というものです。東京・港区 の外務省飯倉公館で行われた表彰式で は、小渕恵三外務大臣(当時)から八尋俊 邦三井広報委員会会長(当時)に表彰状が 手渡され、民間企業関連では唯一の受賞 となりました。

これまでの文化支援活動を さらに進化・発展させた 『三井コラボレーション』 $(1998\sim2004)$

三井広報委員会は、これまで『クロース アップ・オブ・ジャパン』や『三井シンポ ジア・トゥモロウ』などを通じて、海外で の現代日本の文化に対する認識を高める とともに、国内においても人々の文化的 関心の高まりに大きく貢献してきました。 しかし、当初は珍しかったこれらの事業 スタイルも、年々さまざまな団体が行う ようになり、三井広報委員会が "開拓者" として目指した役割は終えたと考えられ るようになりました。そこで、1年以上 をかけて模索し出した答えが、これまで の事業をさらに進化・発展させた新たな 文化支援活動『三井コラボレーション』で した。国内外で活躍するアーティストに 交流の場を提供し、コラボレーションを 通して新しい日本文化の創造を図るもの で、アーティストに自らのテーマに取り 組む場を提供して国内外で公開し、さら にそのプロセスや作品をドキュメントと して残し、活用していくことを目的とし ました。1998年のスタート時に趣旨に 共鳴して参加したアーティストは、ピア ニスト・作曲家の国府弘子氏、CG アー ティスト原田大三郎氏、アコーディオン 奏者 coba 氏、狂言師の和泉元彌氏、作 曲家三木稔氏の5人で、12月の記者発 表では各氏より期待と抱負が述べられま

した。また、八尋俊邦三井広報委員会会 長(当時)は「新しいものが定着するまで にはこれから実績を重ねていく必要があ る。皆様から忌憚のない助言をいただき、 日本文化を支えるために、絶え間ない支 援、努力をしていくつもりです」と決意 を語りました。その後2004年まで、国 内はもとより、海外における日本との交 流行事にて公演を行うなど、いずれも成 功をおさめました。

『ふれあいマーケット』など 三井グループとしての 社会貢献活動を開始 $(1999 \sim 2008)$

三井広報委員会では、三井グループが積 極的に展開すべき活動は文化支援だけ にとどまらず、何らかの社会的な貢献も 必要ではないかと考え、1999年10月に 札幌で開催された『三井コラボレーショ ン』の会場において、グループとしての

社会貢献活動をスタートしました。札 幌市には、障がいのある方々がさまざま な商品を作りながら社会参加を目指す ネットワーク組織・札幌市小規模作業所 連絡協議会があり、その傘下の小規模 共同作業所に販売の場を提供し、三井 グループ社員がエプロン姿で販売を手 伝うことになりました。作業所で心を込 めて作られた商品の販売に協力するこ とで、少しでもその認知向上に役立てれ ばとの想いで行った結果、商品に対する 好意的な評価とともに、グループ各社社 員から、社会貢献の大切さを実感できた との声が多く寄せられました。そこで三 井広報委員会では、この活動を『ふれあ いマーケット』と名付け、その後行われ た『三井コラボレーション』の会場にて 開催したのち、2003年からスタートす る『ふれあいトリオ』事業の一環として、 継続的な活動へと展開していきました。

文化・教育・福祉の 支援プログラムとして 『ふれあいトリオ』を開始 $(2003\sim08)$

2003年4月からは新たな事業として『ふ れあいトリオ』を開始しました。"教育 +文化支援"をコンセプトに全国各地に クラシックの演奏家を派遣し、現地ホー ルが主催する「ふれあいコンサート」、近 隣の小中学校などでミニコンサートと音 楽指導を行う「ふれあいプログラム」、そ してコンサートホールのロビーで障がい のある方々の作業所で作られた商品の 販売機会を提供する「ふれあいマーケッ ト」、これらを『ふれあいトリオ』の3つ の柱として展開。生の音楽を聴く機会の 少ない子どもや高齢者・障がいのある方 などに質の高い音楽にふれていただく場 を提供するとともに、ヴァイオリンの演 奏体験や音楽にあわせて体を動かすボ ディパーカッションなど、聴衆や開催地 了までに全国各地で約250公演を行い、 参加者は延べ約6万人を数えました。

域との一体感を生むイベントとして大き

な盛り上がりをみせ、2008年の事業終

三井グループ内の相互理解と グループ意識の醸成を目指して グループ・コミュニケーション誌 『MITSUI Field』を創刊 (2009~)

野球を中心としたスポーツ支援というア ウター (三井グループ外)向けの活動と並 行して、2009年 1月、インナー(三井グルー プ内)向けに、グループ各社の相互理解と グループ意識の醸成を目指して、グルー プ・コミュニケーション誌『MITSUI Field』 (季刊)を創刊しました。340余年という三 井の歴史を踏まえて今あるグループ各社 社員間の相互理解とコミュニケーション の活性化の一助となるべく、毎号三井の 歴史やグループ各社とその社員の情報を さまざまな角度から紹介しています。

25



「三井ゴールデン・グラブ野球教室

2011 [平成23年]

●「三井ゴールデン・グラブ賞」40周年を迎える。40周年の記念としてBSフジ特別番組「第40回三井ゴールデン・グラブ賞 ~球史を飾った名手たち~」、記念誌「三井ゴールデン・グラブ賞40年の軌跡」を制作。



「三井ゴールデン・グラブ賞」40周年を記念し、 表彰式には山本浩二氏、福本豊氏が来場

●「三井広報委員会」発足40周年を迎 える。40年のあゆみを振り返る記念誌 「三井広報委員会40年史」を制作。



「三井広報委員会40年史」



「三井ゴールデン・グラブ賞40周年記念誌」

●東日本大震災で被災した子どもたち への教育支援を行う「公益社団法人 チャンス・フォー・チルドレン」の活動に 賛同し、2013-15年寄付を実施。

2015

[平成27年]

●日本の伝統文化を継承しつつも、新 たに革新的アイデアを積極的に取 り入れることで、さらに発展させて いる個人またはグループを表彰する 「三井ゴールデン匠賞」を創設。



第1回「三井ゴールデン匠賞」ポスター

2010₄

少年野球指導者を対象とした 『三井ゴールデン・グラブ 野球教室』を開催(2010~)

2008年には、「人の三井」という三井グ ループらしさをベースに、人を大切にし 多様な個性と価値を尊重することで社会 を豊かにしたいという想いを込めて『三 井ヒューマンプロジェクト』を立ち上げ ました。その一環として2010年3月よ り、三井ゴールデン・グラブ賞を受賞し た元プロ野球選手を講師とする、少年野 球の指導者を対象とした野球教室『三井 ゴールデン・グラブ野球教室』をスター トさせ、毎年2回、全国各地で開催し ています。2019年9月の越谷教室では、 第20回を記念して王貞治氏((一財)世 界少年野球推進財団理事長)を特別ゲス トに、また講師には西崎幸広氏(投手・ 日本ハム OB)、里崎智也氏(捕手・ロッ テOB)、田中幸雄氏(内野手・日本ハム OB)、柴原洋氏(外野手・ソフトバンク

OB)と、トレーナーとして吉田直人氏 (NSCA ジャパン ヒューマンパフォーマ ンスセンター)の5名に加え、松岡未希 子氏(エームサービス(株)公認スポーツ 栄養士・管理栄養士)を迎え、100名近 い受講者に向け、"守備"を中心とした 野球の基本技術や理論、子どもたちがケ ガをしないための正しい練習とその指導 方法だけでなく「食育」の面からも、講義 と実技指導を行いました。指導者を対象 にした野球教室は珍しく、受講者からも 好評を博しています。今後も全国各地に て本教室を開催し、子どもたちが大好き な「野球」というスポーツにケガをせず一 生懸命取り組めるように、子どもたちの 夢を応援していきたいと考えています。

日本の伝統を次世代につなぐ "匠"を表彰『三井ゴールデン匠賞』 創設(2015~)

「人を大切にし、多様な個性と価値を尊

重することで社会を豊かにする」という理 念のもと、例えば野球では、土台ともい える守備陣に光を当てたいとの想いから、 三井ゴールデン・グラブ賞を40年以上 にわたり提供してきました。日本の伝統 工芸においても、昨今、後継者不足など 課題があるなか、革新的な取り組みをさ れている方々がいらっしゃいます。日本 の伝統を継承しながら未来につながるも のづくりに真摯に取り組み、さらに発展 させている伝統工芸の担い手に注目と称 賛が集まる機会を創りたい―そんな想い から、新たに2015年に「三井ゴールデン 匠賞」を創設しました。第1回(2016年)、 第2回(2018年)、第3回(2020年)では、 各5組の「三井ゴールデン匠賞」受賞者 の中から、一般投票で選ばれたモストポ ピュラー賞、そしてグランプリが発表さ れました。

本賞を通して、日本の伝統を次世代につ なぐ取り組みを応援していきます。

三井広報委員会 これまでのあゆみ

1961年	● I月I日、三井グループ8社により、三井広報 委員会の前身である「三広会」が発足。 ● 7月31日、テレビ番組「兼高かおる 世界の 旅」の番組スポンサーが三井物産から三広 会へ。
1970年	◆4月、三井物産から「三井グラフ」が創刊。
1972年	●4月1日、三広会を発展的に解消し、 <mark>「三井</mark> 広報委員会」が発足。
1977年	●3月27日、同日放送分の「兼高かおる 世界 の旅」がスポンサーとして最後の番組とな り、4月3日からはテレビクイズ番組「世界を あなたに」をオンエア。
1978年	●4月2日、「世界をあなたに」に替わり「世界にかける橋」の提供開始。 ●夏休みに「相模湖ピクニックランド」(神奈川県)と「三井グリーンランド」(福岡県)で、子どもたちに虫かご2万個をプレゼント。
1980年	 ◆4月27日、提供テレビ番組「世界にかける橋」で鳥飼玖美子さんのワンポイント英語コーナーを新設。 ◆12月、「三井グラフ」通刊42号から三井広報委員会の発行となる。
1981年	●5月7日、霞が関ビル36階に三井グループの PRの場「三井スカイプロムナード」がオープ ンし、 日より無料公開。
1982年	●9月26日、同日放送の「世界にかける橋」を もって同スポンサーを終了。
1983年	●5月7日、第1回「三井シンポジア・トゥモロウ」を大分市で開催。 ●9月14日~11月30日、第1回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をサンフランシスコで開催。
1985年	●2月6日~4月14日、第2回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をロンドンで開催。 ●11月17日~86年2月28日、第3回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をニューヨークで開催。
1986年	●4月20日~7月20日、第4回「クロースアップ・ オブ・ジャパン」をミネアポリス(米国)で、9 月1日~10月26日にはロサンゼルスで開催。 ●11月26日、三井広報委員会が提供を引継 ぎ、ダイヤモンドグラブ賞から「三井ゴール デン・グラブ賞」に名称を改め、12月10日に 表彰式を開催。
1987年	●10月14~29日、第5回「クロースアップ・オ ブ・ジャパン」をパリで開催。
1988年	●5月12日~6月17日、第1回「三井フェスティ バル東京」を開催。 ●5月18日~7月3日、第6回「クロースアップ・ オブ・ジャパン」をシドニーで開催。 ●10月、三井広報委員会企画のPR映画「三 井300年の歩み」が完成。
1989年	●11月3日~12月17日、第7回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をパンコクで開催。 ●成城大学、青山学院大学、学習院大学などの学園祭における街の清掃活動「CAMPUS SWEEPER 学園キャラパン隊」を応援。大学周辺の商店街などを清掃するというもので、地元の人々からも好評を得る。
1990年	●5月10日~6月10日、第2回「三井フェスティ バル東京」を開催。 ●6月、JR有楽町駅に三井広報委員会の電 飾看板を掲示。 ●8月31日、1981年から続いた「三井スカイブ ロムナード」終了。 ●9月27日~10月19日、第8回「クロースアップ・ サオンドンは、大人のフィースアップ・

オブ・ジャパン」をトロント(カナダ)で開催。

1991年	 ◆4月24日~5月9日、第9回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をクアラルンプール(マレーシア)で開催。 ◆4月1~30日、第10回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をベルリンで開催。 ◆5月21日~6月7日、第3回「三井フェスティパル東京」を開催。 ◆三井広報委員会発足20周年として、11月2日に東京・池袋で「山下洋輔ビアノコンサート」および20周年記念レセプションを開催。 	2001年	● 1月25・26日、「三井コラボレーション『リーディ ッグドラマ"天国の本屋"』」を東京で上演。 ● 2月27・28日、「三井コラボレーション『ドラマコンサート"ミッシング・ビース"』」を東京で上演。 ● 5月24~26日、「三井コラボレーション」の海外第3弾をロンドンで開催。 ● 9月20~30日、「三井コラボレーション『ジミー大西×ジェーン・パッカー エキシビション "Energy of Nature"』」をロンドンで開催。 ● 11月20日、「三井コラボレーション『国府弘子サウンドスケッチ in ジャパン』」を長野で開催。
1993年	◆4月27日~6月27日、第11回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をリスボン(ポルトガル)で開催。	2002年	●3月28~31日、「三井コラボレーション『リーディ ングドラマ"天国の本屋"』」を東京で上演。
1994年	●5月6日~6月11日、第4回「三井フェスティバル東京」を開催。 ●9月27日~10月9日、第12回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をアトランタ(米国)で開催。 ●10月30日~12月17日、第13回「クロースアップ・オブ・ジャパン」をサンパウロ/リオ・デ・ジャネイロ(ブラジル)で開催。	2003年	●4月、文化・教育・福祉の支援プログラムとして「ふれあいトリオ」をスタート。北海道江別市を皮切りに、年間全国10ヶ所以上の市町村で開催。 ●11月3~30日、New York 日本ギャラリーにて開催の「ジミー大西作品展~原始の眼~」(主催:NY日本クラブ・吉本興業)に協賛。 ●12月4~27日、「リーディングドラマ『天国の本屋』」(出演:須賀貴匡・紺野まひる・ルー
1996年	●6月3~15日、最後となる第5回「三井フェス ティバル東京」を開催。 ●6月6~30日、第14回「クロースアップ・オブ・ ジャパン」をジャカルタ(インドネシア)で開催。	2004年	大柴)の再々演に特別協賛。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
1997年	●2月8日~3月2日、第15回「クロースアップ・ オブ・ジャバン」をニューデリー(インド)で 開催。	2007年	●7月、200回目となる「ふれあいコンサート」を 開催。2008年の終了までに約250公演、参 加者6万人以上を数えた。
1998年	● 1月30日、「三井シンポジア・トゥモロウ特別 企画「誰でもわかるオペラ入門〜三枝成彰 のトークとオペラアリアコンサート』」を東京 で開催。3月をもって、「三井シンポジア・トゥ	2008年	●三井グループおよびグループ各社の"人" に焦点を当てた社会貢献活動や様々な取 り組みを総称したPR「三井ヒューマンプロ ジェクト」をスタート。
	 モロウ」終了。 ↑月8日、三井広報委員会の国際文化交流 支援活動が評価され、「外務大臣表彰」を 授与される。 ●月11日~10月3日、最後となる第16回「クロー スアップ・オナ・ジャパン」をモスクワで開催。 ■12月16日、「三井コラボレーション」の国内 第1弾、「国府弘子サウンドスケッチ in ジャパン (国府弘子 +リんけんパンド)」を那覇で開催。 	2009年	● I月、三井グループ社員の相互理解を深めるグループ・コミュニケーション誌「MITSUI Field」を創刊。 ● 三井の事業精神や先見性・創造性をグループ各社に改めて知っていただくことを目的に、DVD「三井のこころ」を制作。
1999年	●三井広報委員会ホームページ開設。 ●6月9日、「三井コラボレーション『原田大三	2010年	●3月、三井ゴールデン・グラブ賞受賞歴の あるプロ野球OBによる指導者向け野球教 室「三井ゴールデン・グラブ野球教室」をス タート。
	 邮CG in シンフォニー"メタボール"』」を東京で開催。 ↑月8~16日に「三井コラボレーション」の海外第1弾を北京/上海で開催。 ◆7月24日、coba氏プロデュースの「三井コラ 	2011年	●「三井ゴールデン・グラブ賞」が40周年を迎え、記念特別番組(BSフジ)と記念誌を制作。
	ボレーション『ミュージックスペース"テクノ キャバレー"』」を新潟で開催。 ●10月13日、「三井コラボレーション『国府弘	2012年	●「三井広報委員会」発足40周年を迎える。
	子サウンドスケッチ in ジャパン』」を札幌 で開催。同時に第1回となる「ふれあいマー	2013年	●「チャンス・フォー・チルドレン」へ寄付を実施。
	ケット」を開催。 ●II月21日「三井コラボレーション「リーディングドラマ"zelkova(ゼルカーヴァ)"』」を東京で上演。	2014年	● 9月、特別ゲストに王貞治氏を迎え、第10回 三井ゴールデン・グラブ野球教室を福岡にて 開催。
2000年	● 4月26・27日、5月5日、「三井コラボレーション」の海外第2弾をライデン/アムステルダム (オランダ)で開催。 ● 7月14日、「三井コラボレーション『国府弘子サウンドスケッチ in ジャパン』を大阪で開催。	2015年	●9月、日本の伝統文化において「伝統×イノベーション」を実現している担い手を表彰する「三井ゴールデン匠賞」を創設。第1回の募集を開始する。
	●10月20日、coba氏プロデュースの「三井コラボレーション『光と音のページェント"天使は空から降ってくる"』」を福岡で開催。	2016年	●3月、第1回「三井ゴールデン匠賞」贈賞式を 開催し、5組の匠を表彰。

27

井の

歴

三井の歴史

三井の歴史は、三井高利が延宝元年(1673)に現在の東京・日本橋本 石町に「三井越後屋呉服店」を開業したところからはじまりました。「現銀 (金)掛け値なし」「店先売り」など画期的な新商法で事業を発展させ、 その後に続く銀行業などへの拡大の礎を築きました。三井グループは、 越後屋呉服店の創業以来340年を超えて、現在に続いています。

江戸期

三井高利の「越後屋」

江戸の庶民に呉服を広め、 独創的な販売手法で飛躍的に成長

三井の歴史は、三井高利が延宝元年 (1673)に開業した「越後屋呉服店」に始ま る。越後屋は「現銀(金)掛け値なし」「店 先売り」などの画期的な新商法で事業の 飛躍的拡大に成功。18世紀には小売商 売として世界最大規模を誇るに到った。 天和3年(1683)に新設した両替店は、幕 府公金「御為替御用」を引き受け、呉服と 並ぶ三井の主要事業となった。宝永7年 (1710)、事業と一族を統轄する大元方を 設置し、享保7年(1722)には三井家の家 憲「宗竺遺書」が制定された。事業の共有 制が三井の原則となり、それは第二次世 界大戦後の財閥解体時まで維持された。

1683

江戸に三井両替店

三井の財閥体制確立

銀行、物産、鉱山を基盤に、 人材重視と各社の連携で発展

幕末から明治維新にかけて多くの豪商が 没落していく激動期を、三井は"大番頭" と称された三野村利左衛門の活躍によっ て乗り越えた。維新後は新政府の公金取 扱を担い、明治9年(1876)に、三井銀行 (現・三井住友銀行)と旧三井物産*を創 立。明治21年(1888)には官営三池鉱山 を落札し、三井鉱山に発展させた。旧三 井物産の益田孝、三井銀行の中上川彦次 郎、三井鉱山の團琢磨など傑出したリー ダーの指揮と各社の密接な連携のもとで 三井の事業基盤が固められ、日本の近代 化にも大きな貢献を果たした。明治42 年(1909)に持株会社・三井合名会社が設 立され、財閥としての体制が確立した。

※ 法的には旧三井物産と現在の三井物産には継続性はなく、

1876

日本初の民間銀行・

三井銀行誕生、

旧三井物産創立

三井史を彩る人々



三井 高利

1622~1694年 = 井グループの歴史の源とかる= 井家の元祖。画期的な新商法で 財産を築いた。



中上川 彦次郎

1854~1901年 三井銀行副長。官金依存型の経 堂から脱却させ、日本の近代工業 の育成を図った。



三野村 利左衛門

1821~1877年 幕末維新期の三井の大番頭。幕 府からの御用金の減額を実現し、 = 井銀行設立に貢献。



三井合名会社理事長。三池炭礦 事務長として世界的な最新技術 を導入、三池港を築港。



益田孝

1848~1938年 旧三井物産初代社長。海外貿易

に乗り出し、近代日本の工業化と



池田 成彬

経済発展に尽くした。

1867~1950年 三井銀行常務取締役。外国支店 の拡充、外国為替業務と証券業 務に尽くした。

財閥解体とグループ集約

社会の発展を支え続けるために、 分断された三井各社が再結集

戦後、三井本社(三井合名会社の後身)は、 GHQ の指令にもとづき解散を余儀なく された。三井傘下の各社は、親会社を失 い、横の連携も分断されたが、昭和25年 (1950)、三井 19 社の首脳が集まり「月曜 会」が発足。さらに、昭和31年(1956) に「三井商号商標保全会」、昭和36年 (1961)には三井グループを共同で PR す る「三広会(現・三井広報委員会)」と中核 企業の社長会として「二木会」が発足。二 木会、月曜会はその後も三井家事業の歴 史を共有する企業の参加を得て、三井グ ループは今なお広がりを見せている。

現代期

日本屈指の企業集団へ

社会の繁栄と福祉に貢献し、 今なお広がる三井グループの輪

これらに加え、三井グループは、三井記 念病院や三井文庫、三井記念美術館への 支援、三井業際研究所における調査・研 究、三井ボランティアネットワーク事業 団の活動などをはじめ、様々な CSR 活 動を通じて、国際交流や地域社会の活性 化、環境問題に貢献するとともに、社会 の繁栄と福祉に寄与している。

現在の三井グループは社長会である二木 会加盟会社25社を中核企業として、こ の二木会加盟会社と月曜会加盟会社 76 社で構成されている。

昭和25年(1950)、三井19社の首脳が三井本館に集まり「月曜

会」が発足した。昭和36年(1961)には三井グループをPRする三

広会(現・三井広報委員会)、さらに中核企業の社長会として二

木会が発足。三井グループは、その後も、事業活動に加えて三井

記念病院や三井文庫、三井記念美術館への支援など社会の発

展を支え続けた300年以上に及ぶ三井の使命を戦後も継続し、

積極的に果たしている。(写真は三井グループ各社の支援により

2011年に建替工事が全体竣工した三井記念病院)

大正•戦前期

財閥としての成熟

昭和恐慌から戦時経済へ、 舵取りの難しい時代を迎える

第一次世界大戦期から 1920 年代にかけ て、三井の各事業は飛躍的に発展し、傘 下会社の数も増加、財閥としての成熟期 を迎えた。その時代を象徴するのが、三 井八郎右衞門高棟(三井合名会社社長)と 團琢磨(同理事長)のコンビであった。昭 和7年(1932)、昭和恐慌下での反財閥 気運の高まりの中で、團琢磨が暗殺され た。三井は、池田成彬を三井合名会社筆 頭常務理事に登用して一連の改革策を打 ち出し、難局を乗り切った。日中戦争か ら太平洋戦争の時代に、戦時経済のもと で三井の事業規模は一層拡大したが、経 済統制や軍部への対応などに苦慮する時 代でもあった。

1946

解散

GHQの財閥解体指

令により、三井本社

1929

東京·日本橋区駿河 町に三井本館竣工

1950

月曜会発足

1961

会)発足

二木会および三広会 (現・三井広報委員

2005 三井本館内に三井 記念美術館開館

2011 社会福祉法人三井 記念病院の建替工

事が全体竣工

2013 三井グループ会員制 クラブ「綱町三井倶 楽部」竣工100周年



三井高利夫妻像/三井家の元祖・三井 高利(1622~1694)は延宝元年(1673) に江戸本町に三井越後屋呉服店、京都 に什入れ店を設け、「現銀(金)掛け値な 」、「店先売り」「布の切り売り」「即座に 什立てて渡す,新商法で,江戸,京都、大 坂の三都に呉服店、什入れ店、両替店 をもつ豪商となった。

1710

家政と経営を一

元的に管理する

大元方設立



1673

三井高利が江戸本

町に三井越後屋呉

服店、京都に仕入れ

「丸に井桁三」は三井高利が越後屋の暖簾に最初に使用した 三井の代表的な店章であり、天和元年(1681)頃から使用さ れている。着想は高利の母・殊法の夢想によるものとされてお り、「丸は天、井桁は地、三は人」を意味し、「天地人」の三才 を表していると言われる。



設立

1909

三井財閥の持株会

社·三井合名会社

日本橋室町にある三井本館と日本橋三越 本店の間の日本銀行を望む通りは面側に 店を構える越後屋によって大いに賑わいを



宗竺遺書/三井高利の遺言「宗寿居士古遺 言」を嫡男・高平が集大成し享保7年(1722)に 家法として定めた。一族の和の大切さをはじめ、 = 井家と= 井家にかかわるすべての人々の繁栄 を、さらに事業の発展を永続させていくための 基礎的な戒律が、こと細かに書き記されている。



駿河町三井組ハウス/明治7年(1874)、 三井は駿河町に「為換バンク三井組」を設 立し、明治9年(1876)には日本初の民間銀 行として三井銀行(現・三井住友銀行)が 誕生した。これにより三井家は呉服業を分



東京・日本橋室町にある三井本館は、関東大震 災後の昭和4年(1929)、当時の日本の建築水準 をはるかに超えていた米国最新技術を取り入れ て建設され、三井合名をはじめ直系本社が入居 して三井財閥の中心となった。平成10年(1998) に国の重要文化財に指定されている。



※ 写真提供:公益財団法人 三井文庫/三井不動産/社会福祉法人 三井記念病院

江 戸 江戸初期 三井高俊(三井高利の父)が妻・殊法 と伊勢・松坂で酒・味噌・質の商いを始 める 元和8年 三井家の元祖・三井高利誕生 1622年 寛永12年 高利、14歳で松坂を出立、長兄の店に 慶安2年 母・殊法の孝養のため松坂に帰郷 延宝元年 52歳で江戸本町I丁目に三井越後屋 呉服店を開く 天和3年 本町の店を駿河町へ移し、その西隣に 両替店を新設

長男・高平が事業統括機関・大元方を

享保7年 高平が三井家の家訓・宗竺遺書を制定

慶応2年 三井家が三野村利左衛門を雇用、幕

元禄7年 高利、73歳で没

設置

宝永7年

1710年

1866年	府御用金を減免
明治	
明治4年	為換座三井組を設立
明治5年	日本初の銀行建築・海運橋三井組ハウス竣工 越後屋呉服店を三井家から分離
明治7年	駿河町為換バンク三井組ハウス竣工
明治9年	日本初の民間銀行・三井銀行設立旧三井物産創立、初代社長に益田孝
明治21年	三池鉱山の民間払い下げを落札、團 琢磨を招聘
明治22年	三池炭礦社設立
明治24年	中上川彦次郎が三井銀行入行
明治26年 1893年	三越呉服店を合名会社三井呉服店に 改組 三井組を三井元方に改称 三井窓同族会を設置 三井鉱山合資会社を三井鉱山合名会 社に改称
明治35年	駿河町三井本館竣工
明治37年	三井呉服店を株式会社三越呉服店に 改組、日本初の百貨店化を打ち出す
明治39年	三井家の寄付により財団法人三井慈 善病院(現・社会福祉法人三井記念病 院)設立
明治42年	三井財閥の持株会社・三井合名会社設立

_	T .
	11-

昭 和

大正2年 1913年	綱町三井別邸竣工
大正3年 ^{1914年}	三井合名が理事長制導入、初代理事 長に團琢磨就任
大正7年 ^{1918年}	三井文庫創立
大正12年 ^{1923年}	関東大震災で駿河町三井本館が類焼
大正15年 1925年	駿河町三井本館を解体、三井本館着工
	•

昭和3年 1928年	三越呉服店を株式会社三越に改称
昭和4年 1929年	三井本館竣工
昭和7年 1932年	三井合名理事長·團琢磨暗殺
昭和8年 1933年	三井合名初代社長・三井高棟引退、 三井高公が家督を相続
昭和9年 1934年	財団法人三井報恩会設立
昭和15年	三井総元方設置

昭和8年 1933年	三井合名初代社長・三井高棟引退、 三井高公が家督を相続
昭和9年 1934年	財団法人三井報恩会設立
昭和15年 1940年	三井総元方設置 旧三井物産が三井合名を吸収合併
昭和16年 1941年	三井不動産設立
昭和18年 1943年	三井銀行と第一銀行が合併、帝国銀 行発足
昭和19年 1944年	三井本社設立
昭和20年 1945年	GHQが財閥解体を指令
昭和21年 1946年	三井本社解散
昭和22年 1947年	旧三井物産、三菱商事に解散命令 過度経済力集中排除法施行、王子製 紙、三井鉱山、大日本麦酒などに分割 命令
昭和23年	帝国銀行が第一銀行を分離
昭和25年	三井グループの役員親睦会・月曜会発足
昭和29年 1954年	帝国銀行を三井銀行に改称
昭和31年 1956年	三井商号商標保全会設立 三井不動産、清算後の三井本社を吸 収合併
昭和34年 1959年	三井物産大合同
昭和36年	三井グループの社長会・二木会、三広 会発足
昭和40年	財団法人三井文庫設立

昭和45年 三井記念病院·BC棟竣工

大阪万博に三井グループ館出展

昭和47年	三広会が発展的解消、三井広報委員会発足
昭和50年	沖縄海洋博に三井こども科学館出展
昭和53年 1978年	三井業際問題研究所(現·三井業際研究所)設立
昭和60年	つくば万博に滝の劇場・三井館出展

平 成

平成2年 1990年	三井銀行と太陽神戸銀行が合併、 太陽神戸三井銀行発足 花の万博に「三井・東芝館」出展
	100万 诗に 二升 宋之站]山成
平成4年	太陽神戸三井銀行がさくら銀行に行 名変更
平成8年	江戸東京たてもの園に三井八郎右衞 門邸移築
平成9年 1997年	三池炭礦閉山
平成10年	三井本館が重要文化財に指定
平成13年 ^{2001年}	さくら銀行と住友銀行が合併、三井住 友銀行発足
平成17年 ^{2005年}	日本橋三井タワーが完成 三井本館7階に三井記念美術館開館 愛・地球博に「三井・東芝館」出展
平成20年 ^{2008年}	三越と伊勢丹が経営統合、三越伊勢 丹ホールディングス発足 三井記念病院・入院棟竣工
平成22年 ^{2010年}	三井文庫が公益財団法人に認定
平成23年	三井記念病院の建替工事が全体竣工
平成25年 ^{2013年}	三井報恩会が一般財団法人に移行
平成28年 ^{2016年}	三越日本橋本店本館が重要文化財に 指定

令 和

令和元年 2019年	日本橋室町三井タワー竣工
令和2年 2020年	三井不動産と三井物産の共同事業 「Otemachi One」竣工

発行:三井広報委員会

三井広報委員会 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂3-11-3 赤坂中川ビル3F

TEL 03-3505-6406

FAX 03-3505-6421

URL https://www.mitsuipr.com

制作:日本ビジネスアート(株) 制作協力:(株)三友新聞社

2020年10月/1200

※ 王子製紙(株)の「OKトップコートマットEF」を使用しています。